

開催のご案内

第5回 21世紀ミュージアム・サミット

100人で語るミュージアムの未来 II

～人々をつなぐミュージアム～

美術館、歴史博物館、科学博物館、動・植物園、水族館など様々な館種があるミュージアム。類似施設を加えた「ミュージアム」の総数は、全国で5,000館を超えます。

そうしたミュージアムが、人々にとっての重要な資源を継承し、新しい社会をつくっていく源泉として、活動をより充実させていくためにはどうしたらよいのでしょうか。

第5回 21世紀ミュージアム・サミットでは、東日本大震災後の社会状況を踏まえながら、様々な館種のミュージアムのこれからを考えます。

日時 2012年 2月4日(土)、5日(日) 10:00～18:00 (開場 9:30)

会場 湘南国際村センター
(神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39)

主催 (財)かながわ国際交流財団、日本経済新聞社、神奈川県

後援 文化庁、全国美術館会議、(財)日本博物館協会、(公社)企業メセナ協議会、(独法)国際交流基金
神奈川県教育委員会、神奈川県博物館協会

通訳つき(日・英)

参加費：一般 2,000円、学生 1,000円

事務局：(財)かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター
〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39
Tel: 046(855)1822 Fax: 046(858)1210 E-mail: museum@kif.ac 担当: 成田、尾崎

URL: <http://www.k-i-a.or.jp/shonan/?p=1965> 検索: ミュージアム・サミット 2012

開催趣旨

日本社会は、大きな転換期を迎えています。経済的な意味での疲弊や格差の拡大だけでなく、人々をつなぐ絆とともに、自らが創りだし、共有できる文化が失われてきています。かつて安定していたと言われた日本社会のシステムは、機能しなくなっています。そのような中で2011年3月に起こった東日本大震災とそれに伴う原発事故は、社会にさらなる衝撃を与え、平和な日常が奪われたその先で、本当に必要なものは何かを私たちに問いかけています。

いま多くの人々が、社会の中で絆を結び直し、何が重要かを見極め、既存の仕組みの中で与えられたものを受け取るのではなく、自分たちの力で新しい価値をつくり出していかなければならないと感じているのではないのでしょうか。

情報があふれ、急速に変化する社会の中で、過去から引き継がれたものを残し、人々の創造性を刺激して新たな価値を生み出す場として、また、必要な判断を得るために生涯学び続けるための拠点として、あるいはコミュニティの人々と共に繰り返し立ち寄り、つながりをつくっていく現代の鎮守の森として、ミュージアムは不可欠な場であると私たちは考えています。

一方で、国・自治体の財政難の中、多くのミュージアムでは設立の意義や未来の可能性を十分に検討・共有する間もなく、人員や経費の削減が続く厳しい事態に直面している現実もあります。

ミュージアムは誰のため存在するのでしょうか。この社会の中で何を残し、何を伝えていくべきなのでしょう。

ミュージアムは単独で成り立つことはできず、地域の経済や教育とも密接に関わり、社会の様々な構成者と作用しあって築き上げられていくものであると言えます。第5回ミュージアム・サミットでは、2つの基調講演とともに、「マネジメント」「リテラシー」「アーカイブズ」「企画とパブリック・リレーション」という4つの切り口で分科会を設け、さまざまなミュージアムの実務者や、省庁・自治体、市民団体、研究者など、幅広い分野の関係者の皆さまと共に対話を進めながら、課題を共有し、未来への展望を拓いていきたいと思っております。

● 基調講演

(1日目) 池澤夏樹(作家)

「過去は未来である——ミュージアムの魔法」

(2日目) ジョン・ホールデン (英国シティー大学客員教授、政策シンクタンク DEMOS アソシエイト)

「民主社会における文化の価値」

● 分科会

ミュージアムが市民に支えられ、社会にその価値を還元するパブリックな場として今後発展していくために、ミュージアムに共通する課題を4つの切り口から考えます。

分科会は下記の企画者を含め、1分科会約25名で進行します。趣旨・成果は全体会で発表します。申込時に分科会の希望(第1～第3希望まで)をお書きいただき、希望者多数の場合は抽選により参加分科会を決定します。

テーマA: 営む知恵 (ミュージアム・マネジメント)

ミュージアムは予算や人員の削減に加え、大きな制度改革の波に漂っているようです。事業仕分け、指定管理者制度の導入や市町村合併に伴う統廃合、新公益法人制度への移行などに直面しています。

しかし「ミュージアム冬の時代」と嘆いていても状況は変わりません。この分科会がめざすのは、未来にむけてミュージアムを営む知恵を見出すことです。まず市民参加型のミュージアムとして全国的に知られる大阪市立自然史博物館で、学芸員として長く実績を積まれた後、館長としても大阪市の様々な制度改変を経験されている山西館長から、マネジメントの課題を提起していただきます。そしてグループに分かれ、問題点と解決策を徹底的に議論します。

キーワードは「当事者」。職員、ボランティア、利用者、研究者など立場の違いを問いません。この問題を我がこととしてとらえ積極的に関わろうとする人を歓迎します。現場が元気になる。明日からでも役立つ。心の支えになる。そんなアイデアを分かちあいましょう。

委員長: 高階秀爾 ((公財)大原美術館長)

企画グループ:

佐々木秀彦(東京都美術館 交流係長・学芸員) ※グループ長

島田圭 (神奈川県教育委員会生涯学習課グループリーダー)

森亜津子 (横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館)

柳沢秀行 ((公財)大原美術館 学芸課長)

話題提供: 山西良平 (大阪市立自然史博物館長)

テーマB: 高め合う市民とミュージアム (ミュージアム・リテラシー)

今回の未曾有の大震災に際し、私たち一人一人が、地域の課題に対して主体的に取り組み、対話を通じて協働して解決していくことの重要性があらためて認識されました。このような社会変革の時代にあって、ミュージアムは議論をオープンにして人々の対話を促進し、市民とミュージアムの創造的相互作用(ミュージアム・リテラシー)を高め、両者の協働・協創による市民参画型の社会の実現に寄与することが求められています。

本分科会では、市民が単にミュージアムが提供するものを受け取るだけでなく、自らの社会に必要な場としてミュージアムの価値を主体的に読み解き、かつ働きかけて、ミュージアムと相互に作用するあり方(=ミュージアムと市民が高め合うミュージアム・リテラシーのあり方)を考察します。

市民及び教員(学校)から見たミュージアム・リテラシーについて、西田由紀子氏と小野範子氏から、また、ミュージアム内部にある学芸員のミュージアム・リテラシーについて端山聡子氏から話題提供をしていただいた後、参加者自身とミュージアムとの関わりの履歴を紹介しあい、それらを比較しながら、各活動主体で実現可能な事業の考え方、手法、内容等の面から検討を進めます。

委員長: 建畠哲 (埼玉県立近代美術館長、京都市立芸術大学長)

企画グループ・話題提供:

小川義和(国立科学博物館 学習・企画調整課長) ※グループ長

小野範子(茅ヶ崎市立小和田小学校 教頭)

元神奈川県・茅ヶ崎市教育委員会指導主事(美術教育))

佐藤優香(国立歴史民俗博物館 助教)

端山聡子(平塚市社会教育課 学芸員)

話題提供: 西田由紀子(よこはま市民メセナ協会 会長)

南畷宏 (女子美術大学教授)

テーマC: 選ぶ、残す、伝える、使う (ミュージアム×アーカイブズ)

東日本大震災は、「アーカイブズ」を巡る従来の認識や動向を大きく変えました。公的機関や民間企業、非営利組織などさまざまなプレイヤーによって震災の前後を記録し、後世に伝えようとするアーカイブズ活動がいまなお盛んに行われています。「アーカイブズ」は現在注目を集めていますが、従前と異なるのは、デジタル複製技術やウェブによる保存・公開技術の進展により、従来のアーカイブズに関わる議論や実践が大きな変化を遂げている点です。

このような状況の中で、いま、ミュージアムはこの「アーカイブズ」という思想と活動をどのようにとらえるのでしょうか。様々な変化の中で、オリジナル資料の保存・継承・研究を活動の根幹とするミュージアムの現場で、「選ぶ、残し、伝え、使う」ことは、どのように進んでいくのでしょうか。

本セッションでは、ライブラリーやアーカイブズ、さらにはウェブから知見を有する方々を迎えます。ミュージアムの文化が他の文化と異なりつつも混じり合い、「アーカイブズ」を巡る認識の共通項を探りながら、ミュージアムにおけるアーカイブズについて議論します。なお、本分科会では「アーカイブズ」を巡る議論を地に足のついたものにするため、分科会そのものをアーカイブすることにも取り組みます。

委員長: 水沢勉 (神奈川県立近代美術館長)

企画グループ・話題提供:

- 岡本真 (アカデミック・リソース・ガイド(株)
代表取締役/プロデューサー) ※グループ長
- 稲葉洋子 (神戸大学附属図書館 情報管理課長 「震災文庫」担当)
- 鎌田篤慎 (ヤフー株式会社 R&D統括本部)
- 丹治雄一 (神奈川県立歴史博物館 主任学芸員)
- 福島幸宏 (京都府立総合資料館歴史資料課 主任)
- 水谷長志 (東京国立近代美術館 情報資料室長)

テーマD: 人が集まるミュージアムのつくり方 (ミュージアムの企画とパブリック・リレーション)

「人々がミュージアムに期待すること・求めること」とはどのようなことでしょうか? 逆に、「ミュージアムが人々の求めに応じる」とはどのようなことをいうのでしょうか?

ミュージアムと人々が結びつくことを、PR 活動の重要な側面として位置づけたのが、この分科会です。結びつきとは、ミュージアム→人々、という関係性だけではなく、人々→ミュージアム、さらには人↔人々のリレーションがミュージアムを起点に展開することも含みます。これらの関係性をミュージアム側として構築していくことはもとより、人々がミュージアムをどのような場として認識し、活用していこうとしているか、あるいはどのような活用の可能性があるのかを考えていくことも、ミュージアムの社会的価値を高めていく上で重要ではないでしょうか。

人々の求めることを理解し、それに呼応した企画を考え、広報していくことは、人々と「ともにあろう」とする強い意識をもつことでもあります。漠然とした mass としての「人々」ではなく、生活し、それぞれの個性あふれた人格や顔をもった存在として尊重することぬきに、リレーションづくりはできません。

分科会は、養豊委員長による兵庫県立美術館等での取組の紹介を始め、企画グループメンバーからの事例紹介なども織り交ぜながら進行します。たくさんのアイディアを持ち寄り、そして持ち帰りましょう。

委員長・話題提供:

- 養豊 (兵庫県立美術館長、金沢 21 世紀美術館特任館長、
大阪市立美術館名誉館長)

企画グループ・話題提供:

- 並木美砂子 (千葉市動物公園 飼育課主査) ※グループ長
- 荻原康子 ((公社)企業メセナ協議会 事務局次長)
- 田口公則 (神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員)
- 村尾知子 (東京都写真美術館 管理課)

● プログラム

【第1日】 2月4日(土) 10:00～18:00 (9:30 開場)

- 10:00 開会挨拶・オリエンテーション
- 10:20 基調講演: 「過去は未来である——ミュージアムの魔法」 池澤夏樹
- 11:10 休憩
- 11:20 フロア・ディスカッション
- 12:20 昼食
- 13:15 分科会趣旨説明、委員長・話題提供者紹介 (全体会)
- 14:30 休憩・移動
- 14:45 分科会 ※
 - グループ A 「営む知恵(ミュージアム・マネジメント)」
 - グループ B 「高めあう市民とミュージアム (ミュージアム・リテラシー)」(※グループ A,B が 2 部屋に分かれて同時に進行。C,D の参加者は聴講・見学)
- 16:15 休憩・移動
- 16:30 分科会 ※
 - グループ C 「選ぶ、残す、伝える、使う(ミュージアム×アーカイブズ)」
 - グループ D 「人が集まるミュージアムのつくり方
(ミュージアムの企画とパブリック・リレーション)」(※グループ C,D が 2 部屋に分かれて同時に進行。A,B の参加者は聴講・見学)
- 18:00 初日終了 (宿泊者チェックイン)
- 18:30 レセプション・情報交換会

【第2日】 2月5日(日)10:00～18:00 (9:30 開場)

- 10:00 オリエンテーション、前日の振り返り
- 10:10 基調講演: 「民主社会における文化の価値」 ジョン・ホールデン (同時通訳つき)
- 11:15 質疑応答等
- 11:35 昼食
- 12:20 分科会 ※
- 15:10 休憩・移動
- 15:40 成果報告・総括討議 (全体会)
- 17:40 振り返り、参加者からのコメントなど
- 18:00 閉会

※プログラムは、都合により変更することがあります。

※ 分科会参加について

【第1日 2月4日(土)】

A(マネジメント)、B(リテラシー)に参加が決定した方は、初日(2月4日(土))14:45～16:15は、ご自身の分科会にご参加いただき、16:30～18:00は、C(アーカイブズ)、D(企画・パブリックリレーション)の分科会をご見学いただくことができます。(C、Dの分科会に参加が決定した方はその逆になります)

【第2日 2月5日(日)】

12:20～15:10の時間帯は、ご自身の分科会にご参加いただきます。他の分科会の成果は15:40からの全体会で報告・討議します。

●申込要領

【定員】 80名（両日参加できる方）

- ・ 様々な館種のミュージアムの職員、支援者の方（館長、学芸員、事務職員、ボランティアの方など）
- ・ 省庁、自治体のミュージアム関連施策ご担当の方
- ・ 図書館、文書館などミュージアムに関連する文化施設の関係者の方
- ・ ミュージアムと連携する地域団体・学校等教育機関の方
- ・ 関連分野の研究者、企業関係の方
- ・ この分野に関心を持つ市民や学生の方 など

【会場】 湘南国際村センター（神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39）

会場アクセス:[P7をご覧ください](#)。URL: <http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

【参加費】 一般 2,000円、学生 1,000円

【昼食】 2月4日(土)1,200円（幕の内弁当）、2月5日(日)1,000円(サンドイッチ弁当)※飲み物つき

※会場周辺は商店・食堂などが少なく、時間も限られています。

昼食は事前に予約をされるか、ご持参ください。（申込書にご記入ください）

【レセプション・情報交換会費】

3,500円 ※立食形式

【宿泊(朝食つき)】

7,950円（湘南国際村センター内の宿泊施設(割引価格)。なお、割引が適用される部屋には数に限りがございますので、お早目にお申し込みください）

※参加費、昼食費等のお支払いにつきましては、参加決定時に改めてお知らせいたします。

【申込方法】

要事前予約。

参加申込書に必要事項をご記入の上、下記の申込先までお送りください。

申込多数の場合は抽選となります。

【申込締切】

2012年 1月12日(木)

※1月25日(水)を目途に参加の可否を郵送で発送します。

【申込み・問合せ】

(財)かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター 担当:成田、尾崎

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39

Tel: 046(855)1822 Fax: 046(858)1210

E-mail: museum@kif.ac

URL: <http://www.k-i-a.or.jp/> (財団 HP)

<http://www.k-i-a.or.jp/shonan/?p=1965> (第5回 21世紀ミュージアム・サミット紹介ページ)

Twitter アカウント: KIF_shonan_PR

【注意事項・その他】

※参加者間の交流のため、ご氏名・ご所属を記載した参加者名簿を配布します。
ご了承のうえご参加ください。(参加者決定者にのみ印刷して配布します)

※会期中、参加者の皆さまの所属館や関連事業などの情報提供コーナーを設置します。
チラシ等の配布、ポスターの掲示などを希望される方は、当日ご持参ください。

※U-Stream による基調講演の中継を検討中です。決定次第当財団HPでお知らせしますので、視聴をご希望の方は事前に当財団ホームページで予定をご確認ください。



会場へのアクセス

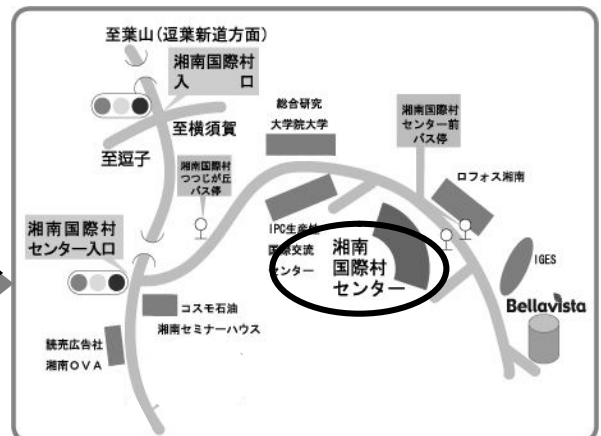
<http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

《路線バス》

○JR 逗子駅前1番乗り場から京急バス「湘南国際村センター前」行きバスに乗り。終点で下車。所要時間約 30 分、料金 340 円。9:16 発のバスがあります。

(JR 逗子駅発車後約2分で京急新逗子駅前1番バス乗り場に停車します)

○京急汐入駅前2番乗り場から京急バス「湘南国際村センター前」行きバスに乗り。終点で下車。所要時間約 30 分、料金 370 円。8:09 発のバスがあります。



《高速バス》

横浜駅東口<Y-CAT>から横須賀西地区行きに乗車、湘南国際村センターまで約 45 分、900 円。8:55 発のバスがあります。

《タクシー》

JR 逗子駅前タクシー乗り場より湘南国際村センターまで約 15 分、約 2,800 円

21 世紀ミュージアム・サミットについて

(財) かながわ国際交流財団、日本経済新聞社、神奈川県の主催により、2004 年から隔年で開催。これまでルーヴル美術館など世界の主要美術館の館長を日本に招へいし、「文化の継承と創造」「ミュージアム・イノベーション」などをテーマに、文化の重要な担い手としてのミュージアムの課題と新たな可能性についての議論を行い、成果を書籍として発信しています。

※ミュージアム・サミット関連情報: <http://www.k-i-a.or.jp/shonan/?cat=5>

財団法人かながわ国際交流財団について

「持続可能な多文化共生の地域社会かながわの基盤づくり」を目標に、多文化共生社会の実現、地域からの国際交流・協力活動の支援、国際的な視野を持つ人材の育成、学術文化交流などの事業を行っています。

理事長: 福原義春 ((株) 資生堂名誉会長、東京都写真美術館長)。

※かながわ国際交流財団 URL: <http://www.k-i-a.or.jp/>

※湘南国際村学術研究センター URL: <http://www.k-i-a.or.jp/shonan/>

ミュージアム・サミット 関連書籍・報告書のご案内

(ミュージアム・サミット当日、会場にて割引価格で販売いたします)

① 「ミュージアム・パワー」 (高階秀爾・養豊編)

クレーヴランド美術館、アムステルダム国立博物館、シカゴ美術館、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、ポンピドゥー・センター国立近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、ストックホルム国立近代美術館、国立西洋美術館 金沢 21 世紀美術館など、世界の主要な美術館、博物館長を招いて開催された、第 1 回・第 2 回 21 世紀ミュージアム・サミット “21 世紀の美術館の展望と新たな挑戦”をめぐるとの討論の記録。

慶應義塾大学出版会 四六判・上製 / 296 頁 / 2,625 円 (2006 年 10 月刊)

② 「ミュージアム新時代」 (建畠哲編)

世界の美術館に押し寄せる変化の波を、同時代に生きるフランス、アメリカ、スコットランド、中国、日本の美術館館長たちがいかに受け止め、自己革新に取り組んでいるのかを主題に徹底討論。第 3 回 21 世紀ミュージアム・サミットの記録。ルーヴル美術館長、ケ・ブランリー美術館前館長、中国美術館長、スコットランド・ナショナル・ギャラリー近現代美術館長、アジア協会美術館理事長と、国内の美術館長らによる討議。

慶應義塾大学出版会 四六判・上製 / 348 頁 / 2,625 円 (2009 年 3 月刊)

③ 「100 人で語る美術館の未来」 (福原義春編)

—あなたにとって美術館とは？2010 年 2 月末に、画期的な手法「ワールド・カフェ」を交えて開催された「第 4 回 21 世紀ミュージアム・サミット」の内容を、カラー写真を交えて掲載。また後日行われた美術館関係者及び美術館を取り巻く多彩な専門家による座談会・インタビューを収録。アートの本質と美術館の社会的な意義を、多様な視点から紹介。基調講演：鷲田清一(哲学者)、佐伯胖(認知心理学者)、鑑賞者と作品をつなぐ取組みについての事例紹介：ルーヴル美術館、イザベラ・スチュアート・ガードナー美術館(米)、神奈川県立近代美術館 等。

慶應義塾大学出版会 A5判・並製 / 236 頁 / 2,625 円 (2011 年 2 月刊)

④「ミュージアムと地域社会 考察のためのヒアリング調査」 (かながわ国際交流財団編)

「第 5 回 21 世紀ミュージアム・サミット」開催に向けて、ミュージアムの公共性、隣接分野・多分野の関係者の参画などをキーワードに、現在のミュージアムの課題について行った関係者へのヒアリング、ワークショップの報告。

多数の関係者を巻き込んだイギリスのミュージアム改革、指定管理者制度の成功事例として注目を集めた事例、図書館関係者による MLA 連携の可能性、科学リテラシーとミュージアム・リテラシーなど、興味深い内容が満載。若手研究者によるミュージアムのステイクホルダーをテーマにしたワークショップの報告もあり。

A4判 / 134 頁 / 500 円(送料込) (2011 年 4 月刊)

詳細はこちらをご覧ください：

かながわ国際交流財団HP 関連出版のご案内

<http://www.k-i-a.or.jp/shonan/?cat17>

お問い合わせ：

かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター

Tel: 046(855)1822 E-mail: shonan@k-i-a.or.jp



「100 人で語る美術館の未来」 2011 年 2 月刊